

八尾歴史物語

四八巻

河内名所図会をあるく①〜東高野街道・前編（神立）〜

江戸時代の後半に出版された『河内名所図会』（以下「図会」）は、分かりやすい挿絵の効果もあり、観光ガイドブックのはじまりといわれています。

当時の人々は、街道を歩いて名所や旧跡を訪ねました。そこで、図会を片手に、最も挿絵の多い高安郡を南北に通じる東高野街道を歩いてみましょう。

東高野街道は、京都から、生駒山地の山沿いを通り、図会の出版時には付け替えられていた大和川を越えて、紀伊・高野山への参詣に使われた街道です。高野山へ行く途中、高安郡に立ち寄ることにします。

まずは、江戸時代の初めに争われた大坂夏の陣ゆかりの神立に向かいましょう。一度、東高野街道を離れ、大竹にある中河内最大の前方後円墳である心合寺山古墳を眺めつつ、山側へ坂道を上る十三街道を進みます。そうすると、神立に着きます。

神立には、大阪府最大の横穴式石室である愛宕塚古墳や宇治

の平等院に瓦を供給した向山瓦窯など古代の遺跡が数多くありますが、むしろ当時の人々は、近い歴史でなじみがある大坂夏の陣の戦場になったこの地を見に訪ねました。この辺りは、徳川軍が大坂城を攻めるため、街道の南に藤堂家が、北に井伊家が陣を張った場所です。藤堂家は陣を張るために、玉祖神社の本殿などを撤去したとされています。この戦いを経て幕府での地位を高めた藤堂家は戦後、戦勝の地といえる神立に幾度も訪れています。神社の復興にも尽力したと考えられており、図会に描かれた

神社境内は整えられた後の姿をしています。

さて、十三街道沿いの在原業平ゆかりの茶屋で一服し、道を進めることにしましょう。【続く】



▲玉祖神社

☆問合せ 文化財課

☎ 924・8555

FAX 924・3995